

○兵庫縣國寶圖録

兵庫縣廳編

兵庫縣下は其の管内が廣いためと、王畿に近い土地柄のため、國寶の数は恐らく京都及び奈良に次いでの数であらうし、其の種類も可なり複雑であり、且つ其の所在地を明かにする事が、幾多の新智見を齎す事にもなるものである。

今回、兵庫縣に於ては、縣下に所在するだけの國寶を、一冊の圖録に纏めて上梓されたのが即ち本書であるが、國寶圖録と言へば、嵩の大きな持ち運びに不便なものでもあるかに思はれるが、これは全く然らずして四六版の宛に手頃のサイズである事が第一に嬉しい。そして編輯に非常に苦心が拂はれて居つて、圖版の右側に解説の來る様に仕組まれて居り、其の前頁には、其等の國寶を所有する神社寺院の由緒縁起が記されて居り觀る者をして、其の國寶の存在する背景を知るに便ならしめてある。

國寶圖版に附せられた解説は數行のもので極めて簡單であるけれども至つて明白で、且つ何時代のものであるかを明記してある事は、教へらるゝ所が大きいし、其の社寺に到る交通關係が親切に示してある事も、他に類例を求め得られない重寶なものである。解説は、魚澄惣五郎、武藤誠、吉井太郎の三氏が當られた。非賣品である事が、惜しい様な氣がする。(中村)

○山村生活の研究

柳田國男編

近時に於ける民俗學界は著しい發展の過程を辿つてゐる。就中柳田國男氏を中心とする民間傳承の會の活動は注目すべきものであつて、斯學研究の主流と稱するも決して過評ではなく、その業績は賞讃に値するものと云へる。成立二ケ年にして全國各府縣に千名に垂とする會員を擁し、東京、大阪に於ける長期講習會、又各地には講演會を頻に開催し、機關誌民間傳承を月刊する外にも幾多の報告書、語彙、調査手帖等の出版を行ひ、啓蒙と向上とあらゆる方面に於いて民俗學界に貢獻するところが甚大である。本書も亦同會によつて近く世に送られた學界待望の巨編であつて、柳田先生の指導の下に郷土生活研究所の諸君即ち所謂不暇會の同人の勞作に係るものである。

「日本僻陬諸村に於ける郷黨生活の資料蒐集調査並びにその結果の出版」なる名義によつて、日本學術振興會の援助の下に三ケ年五十ケ村の山村調査の着手されたのは昭和九年四月のことであつた。その以前の民俗學とは概ね個人的旅行によつて得られた、或ひは地方の所謂郷土史家の報ずる珍奇な習俗の蒐集に過ぎず、そこには依然として近世の耽奇癖が漲り、學の名を冠して呼ぶには僭越極る状態に沈溺してゐたのである。

柳田先生はこの混沌の外に獨り高く、郷土研究社以來の組織的研究の重要性を主張し、日本民俗學の建設に精進されたが、